



平成 20 年 3 月 10 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 テ イ ツ ー
 代表者の役職名 代表取締役社長 大橋 康宏
 (J A S D A Q ・ コ ー ド 7 6 1 0)
 問い合わせ先 取締役 C F O 片山 靖浩
 電 話 番 号 0 3 - 5 4 0 8 - 5 5 3 2

平成 20 年 2 月期 2 月度の概況についてのお知らせ

平成 20 年 2 月期 2 月度の概況を、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 単体売上高速報

(百万円)

	3月	4月	5月	1 Q	6月	7月	8月	2 Q	上半期	
売上高	3,819	3,613	3,104	10,536	2,995	3,419	3,186	9,601	20,137	
対前年同月増減率(実質)	10.9%	17.7%	8.8%	12.5%	18.8%	11.5%	4.6%	11.2%	11.9%	
対前年同月増減率(名目)	7.8%	13.9%	4.2%	8.7%	13.8%	7.0%	-0.8%	6.2%	7.5%	
	9月	10月	11月	3 Q	12月	1月	2月	4 Q	下半期	年度累計
売上高	3,180	2,715	3,304	9,200	5,292	4,757	2,897	12,947	22,147	42,285
対前年同月増減率	7.0%	1.1%	9.2%	5.9%	-16.1%	-6.3%	-16.6%	-12.9%	-5.9%	1.8%

- (注) ・ 平成 18 年 9 月 1 日に株式会社テイツーのアイ・カフェ事業部門を会社分割し、子会社の株式会社アイ・カフェに承継したため、上半期中については比較対象としている前年の単体売上高を以下のように区別しております。
- ・ 対前年同月増減率(実質)は、比較対象としている前年同月の単体売上高には、アイ・カフェ事業部門の売上高を控除した数字を使用しております。
 - ・ 対前年同月増減率(名目)は、比較対象としている前年同月の単体売上高には、アイ・カフェ事業部門の売上高を含めた数字を使用しております。

2. 事業セグメント別 既存店売上高速報(対前年同月増減率)

	3月	4月	5月	1 Q	6月	7月	8月	2 Q	上半期	
古本市場事業	7.1%	12.9%	6.9%	8.9%	14.9%	9.6%	0.6%	7.9%	8.5%	
アイ・カフェ事業	4.1%	5.4%	9.6%	7.2%	11.8%	7.4%	5.6%	7.9%	7.2%	
E C 事業	-9.5%	-4.9%	-4.8%	-6.4%	-5.7%	-5.2%	-0.7%	-3.9%	-5.2%	
(E C 売上)	4.1%	9.8%	9.7%	7.8%	6.5%	7.2%	14.7%	9.3%	8.5%	
(その他売上)	-89.1%	-88.8%	-88.7%	-88.9%	-91.4%	-87.5%	-87.9%	-88.9%	-88.9%	
	9月	10月	11月	3 Q	12月	1月	2月	4 Q	下半期	年度累計
古本市場事業	3.9%	-0.5%	7.8%	3.9%	-16.5%	-6.9%	-17.3%	-13.1%	-6.7%	-0.1%
アイ・カフェ事業	6.5%	-3.0%	-4.4%	0.0%	-0.7%	-6.4%	-4.9%	-4.2%	-2.1%	2.3%
E C 事業	5.9%	-9.5%	-8.9%	-4.5%	-23.3%	-18.9%	-14.3%	-18.7%	-12.1%	-8.7%
(E C 売上)	22.1%	5.8%	3.6%	10.0%	-11.9%	-10.8%	-6.6%	-9.5%	-0.6%	3.9%
(その他売上)	-86.9%	-90.2%	-88.4%	-88.6%	-89.2%	-87.4%	-84.0%	-87.3%	-88.0%	-88.4%

- (注) ・ 事業セグメント別既存店売上高速報には連結対象子会社の売上高も含まれているため、上記 1. 単体売上高の対前年同月増減率とは連動いたしていません。
- ・ アイ・カフェ事業は、連結対象子会社である(株)アイ・カフェの売上高の対前年同月増減率を記載しております。
 - ・ E C 事業は、連結対象子会社である(株)ユーブックの売上高の対前年同月増減率を記載しております。
 - ・ 既存店は、開店後 13 か月目からを既存店舗と定義しております。

3. 営業概況

2月度のテイツー単体売上高は、対前年同月比16.6%減の2,897百万円となりました。

古本市場事業につきましては、新品ゲームにおいて1月に発売されたWii用ソフト「大乱闘スマッシュブラザーズX」の販売が引き続き好調であったものの、「ニンテンドーDSライト」などのゲーム機ハードの販売が好調であった前期の売上増加には及ばず、既存店売上高は対前年同月比17.3%減となりました。

アイ・カフェ事業につきましては、新コンテンツ導入に先駆けて「Webマガジン配信（出版社16社が発行する雑誌をWeb上で無料講読できる）サービス」のトライアルを行うとともに、バレンタイン・デーに合わせたサービス企画を実施するなど顧客サービスの向上に努めましたが、消費者物価の上昇、特に原油高によるガソリン高騰の影響でロードサイド店舗での客数が減少したことなどにより、既存店売上高は対前年同月比4.9%減となりました。

EC事業につきましては、テレビアニメ化またはテレビドラマ化された作品の「原作本特集」を実施するなど販売強化に注力いたしましたが、前期の売上増加には及ばず、EC事業売上高は対前年同月比14.3%減となりました。

4. 出退店の状況

	08/1 末店舗数	出店数	退店数	08/2 末店舗数
古本市場事業	117	0	0	117
（古本市場直営店）	（88）	（0）	（0）	（88）
（古本市場業務提携・FC店）	（25）	（0）	（0）	（25）
（ブック・スクウェア）	（4）	（0）	（0）	（4）
アイ・カフェ事業	32	0	0	32
（直営店）	（17）	（0）	（0）	（17）
（FC店）	（15）	（0）	（0）	（15）
合計	149	0	0	149

（注）売上高は、公表日までのデータに基づいた速報ベースであり、修正される可能性があります。

また、監査法人による会計監査は受けておりません。

以上